

在宅医療介護連携市民啓発シンポジウム

これからの在宅医療に希望をつなぐ～大都市東京での明暗を考える～

「これからの超高齢社会を生き抜く」

日程 2025年9月28日(日) 9時30分～12時35分

会場 たましんRISURUホール(住所:東京都立川市錦町3-3-20)

第一部 スペシャル対談 (日本在宅医療連合学会第7回地域フォーラム企画)



テーマ:

いのちをつなぐ

講師: 作家・評論家 柳田邦男 先生

講師: 医師・医学博士 川越厚 先生



座長: 立川在宅ケアクリニック 理事長 井尾和雄 先生

座長: 立川在宅ケアクリニック 院長 荘司輝昭 先生



第二部 映画上映 (立川市企画)

「僕とケアニンとおばあちゃんたちと。」

入場は無料 定員 300人

(車いす席あり。定員を超えない場合は当日も受け付け)

参加をご希望の方は、9月19日(金)までに、
右の QRコードからアクセスいただくか、
電話申込みの場合は立川市高齢政策課
認知症対策係へお申し込みください。



TEL:042-523-2111 内線1482(平日8:30～17:00)

第一部 スペシャル対談（日本在宅医療連合学会第7回地域フォーラム企画）

講師：柳田 邦男 先生

ノンフィクション作家、評論家

1936年、栃木県生れ。1995年『犠牲一わが息子・脳死の11日』とノンフィクション・ジャンル確立への貢献が高く評価され菊池寛賞受賞。災害・事故・公害問題や、生と死、言葉と心の危機、子どもの人格形成とメディア等の問題について積極的に発言している。主な近著に『壊れる日本人』『「気づき」の力』『生きなおす力』『人の痛みを感じる国家』『新・がん50人の勇気』『僕は9歳のときから死と向きあってきた』『「想定外」の震一大震災と原発』『生きる力、絵本の力』『終わらない原発事故と「日本病」』『言葉が立ち上がる時』がある。翻訳絵本に『ヤクーバとライオン』『少年の木』『その手に1本の苗木を』『やめて！』等多数。

講師：川越 厚 先生

在宅ホスピス研究所パリアン代表

東京大学医学部卒業。茨城県立中央病院産婦人科医長、東京大学講師、白十字診療所在宅ホスピス部長を経て、1994年より6年間、賛育会病院院長を務め、退職。2000年6月、自らのクリニックを開業すると同時に、在宅ケア支援グループ・パリアンを設立。2008年8月、医療法人社団パリアン理事長。2021年8月、医療法人社団パリアン解散。同月山梨県北杜市に拠点を移し、在宅ホスピス研究所パリアン代表に就任。

座長：井尾 和雄 先生

立川在宅ケアクリニック理事長
日本尊厳死協会評議員

1984年帝京大学医学部卒業、帝京大学病院麻酔科入局、国立王子病院、帝京大学病院、井上レディースクリニック麻酔科勤務を経て2000年井尾クリニック開業、2008年立川在宅ケアクリニックに名称変更、2023年8月立川市曙町に移転現在に至る。著書には「看る診る看取る」「後悔しない最期の時の迎え方」「幸せな最期」「死に方のトリセツ」など。2025年7月の時点で4900人以上を看取ってきた。

座長：莊司 輝昭 先生

立川在宅ケアクリニック院長
立川市医師会副会長、東京都医師会理事

1991年杏林大学医学部卒業、1997年杏林大学大学院研究科法医学専攻卒業（医学博士取得）、1992年杏林大学附属病院第二外科勤務、1996年東京都監察医務院 非常勤監察医、1997年静岡県共立蒲原総合病院外科医長、2001年（医）陽和会西窪病院、2003年（医）織本病院副院長、2006年警視庁嘱託医（継続中）、2008年（医）島村記念病院 院長、2012年立川在宅ケアクリニック勤務、2016年立川在宅ケアクリニック 院長就任

第二部 映画上映 僕とケアニンとおばあちゃんたちと。（立川市企画）

おばあちゃんたちと。 ケアニンと 僕と

認知症になったら、人生は終わりだと思ってた。ここに来るまでは――

ナレーション 戸塚純貴

製作：山田秀幸、監理：アリス・プロダクション、山田秀幸、監修：香川裕光「小さなつばみ」 特別協力：加藤忠昭（あひけあ）

脚本：山田秀幸、原案：アリス・プロダクション、山田秀幸、監修：香川裕光（本堂製作所） 実行プロデューサー：山田秀幸、アリス・プロダクション、山田秀幸、監理：アリス・プロダクション、山田秀幸、監修：香川裕光（本堂製作所） 実行プロデューサー：山田秀幸、アリス・プロダクション、山田秀幸、監理：アリス・プロダクション、山田秀幸、監修：香川裕光（本堂製作所）

そこは人生を豊かに生きるためのヒントにあふれていた。世界中が注目する介護施設「あひけあ」の1年間の記録。

「介護は楽くない」と思う高齢者
「僕を介護現場にゆだねるのは申し訳ない」と思う子ども世代
「介護の仕事が辛い」と思う介護スタッフ
世界中の人が介護に出会うと不幸になると思いませんか？
日本にはそうじゃないとこけこうありますよ〜
加藤忠昭（株式会社あひけあ 代表取締役）

寄り添い 支え合って 人は生きていく

世界中が注目する介護施設「あひけあ」
そこは人生を豊かに生きるためのヒントにあふれていた。

神奈川県藤沢市にある「あひけあ」は、国内外からの視察や取材が絶えない、今もっとも注目を集める介護施設です。施設は常に、利用者や介護スタッフの笑い声で溢れ、訪れた誰もが「ここで過ごしたい」「ここで働きたい」と言います。その人らしい生活を送れるよう支える自立支援ケアは、あひけあ流として多方面に影響を与えています。また、自主上映会が1年間で800回以上開催されるなど全国各地で話題を呼んでいる映画「ケアニン〜あなただけじゃなかった〜」のモデル施設にもなっています。

認知症になったら、料理も、子守りも、恋もする。

本作は、プロデューサーから「すごい施設があるからドキュメンタリーを撮ってくれないか」と依頼された「僕」（監督）が、カメラを片手に1年間密着、介護にまったく馴染みのない若手ドキュメンタリー監督が、人生を描き出している認知症のお年寄りたちの姿に驚きながらも、話題の介護施設のウラオモテ、その秘密も明らかにしていきます。ナレーションは、「ケアニン」で主人公の新人介護福祉士・大森圭役を好演した戸塚純貴、監督は同作でメイキングディレクターを担当した佐々木航弥が務めています。映画のモデル施設に1年間密着取材を敢行した本作は、まさに「リアル版ケアニン」と言えます。

認知症になったら、人生終わりだと思ってた。

介護施設に来るのもはじめてだし、認知症の人と話したこともない僕がこのドキュメンタリーなんて撮れるのだろうか。しかし、1年が経つ頃には僕の中で何か変わり始めていた…
笑顔あふれるお年寄りたち、そしてケアニンと僕のかけがえない1年間の記録――

ケアニンとは…
介護、看護、医療、リハビリなど、人の「ケア」に関わり、自らの仕事に誇りと愛情、情熱を持って働いている全ての人。

ナレーション 戸塚純貴
監督：佐々木航弥、監理：山田秀幸、企画：アリス・プロダクション、山田秀幸、監修：香川裕光（本堂製作所） 脚本：山田秀幸、アリス・プロダクション、山田秀幸、監理：アリス・プロダクション、山田秀幸、監修：香川裕光（本堂製作所） 実行プロデューサー：山田秀幸、アリス・プロダクション、山田秀幸、監理：アリス・プロダクション、山田秀幸、監修：香川裕光（本堂製作所）